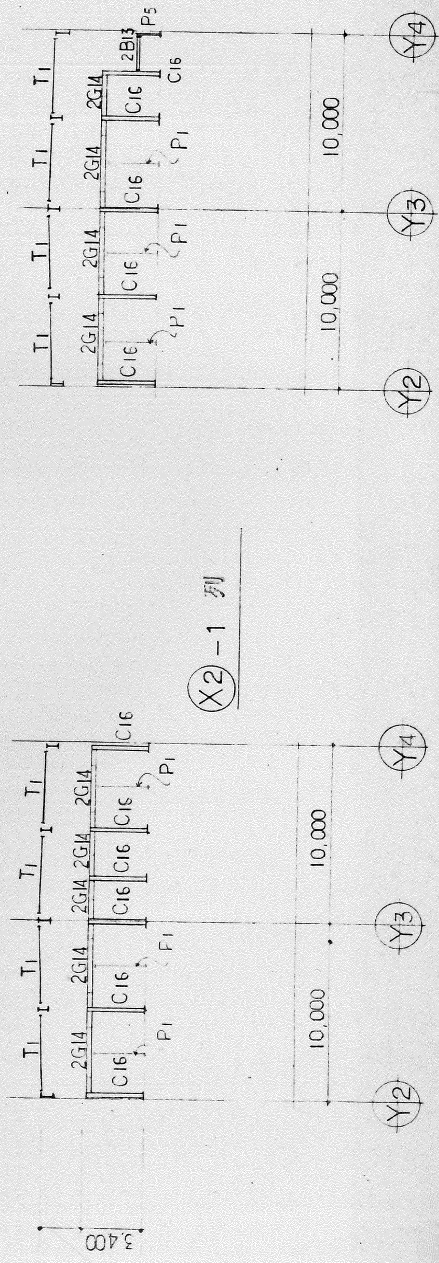


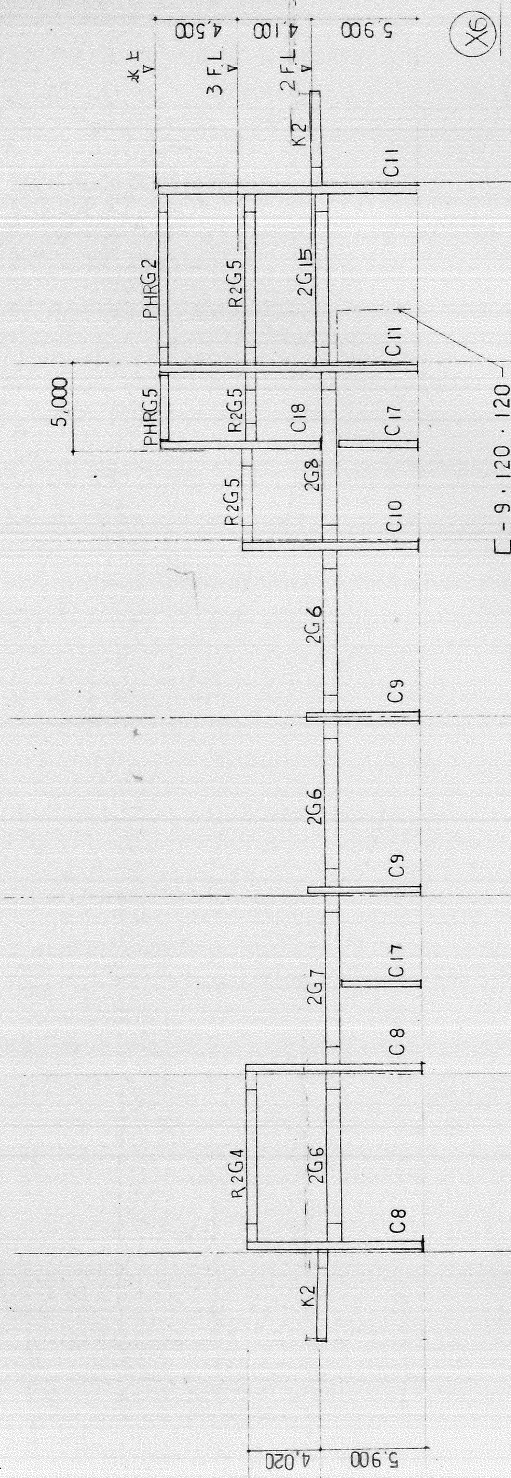
Ⓧ11 ~ Ⓧ15

Ⓧ15 列

Ⓧ2 - 1 列

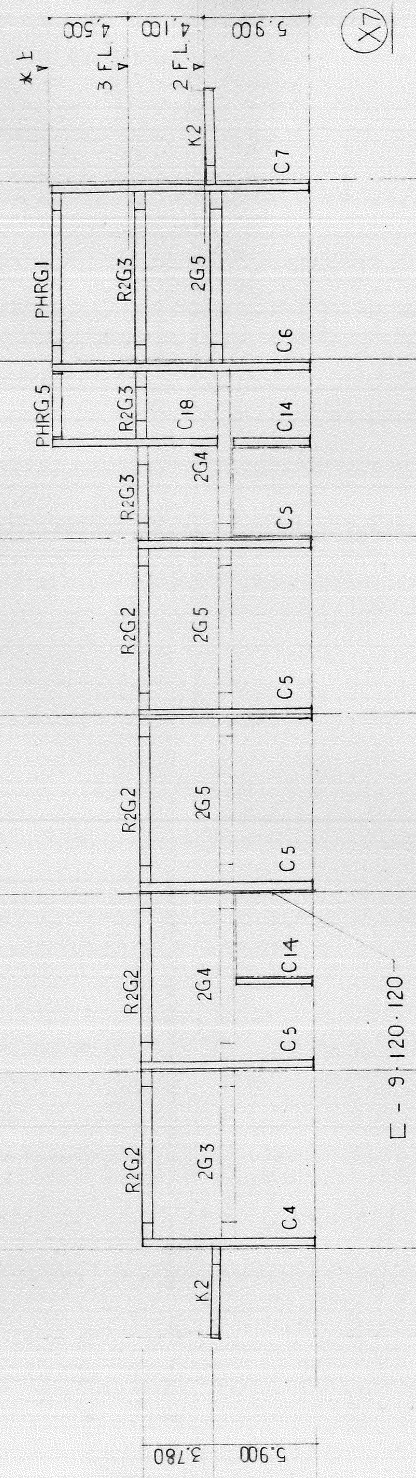
Ⓧ10 - 0 列





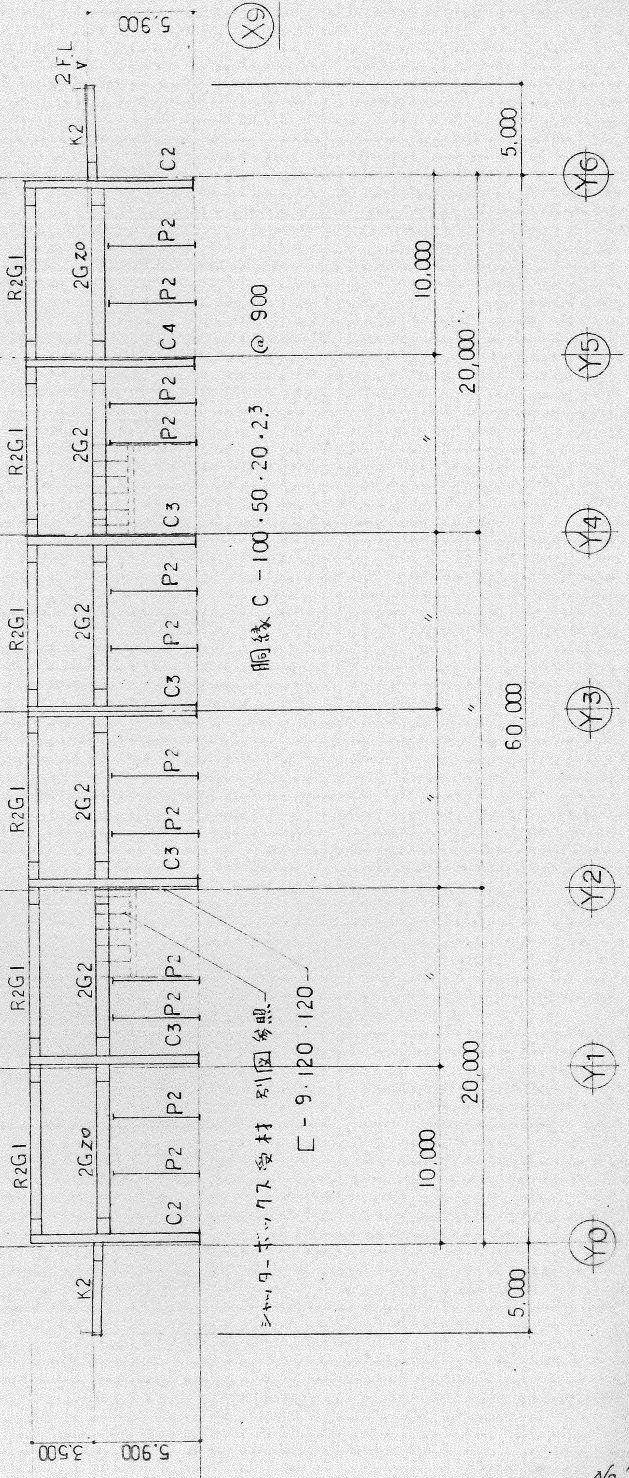
□ - 9・120・120

(X6)



□ - 9・120・120

(X7)



鋼柱 C - 100・50・20・2.3 φ 900

シャフトボルト受材 別図参照

□ - 9・120・120

(X9)

1-2 設計方針

(1) 基本計画

I) 解法の方針

(イ) 計算に当っては建築基準法、同施行令および日本建築学会計算規準による。

但し、鋼構造設計規準、建築基礎構造設計規準
鉄筋コンクリート構造計算規準
溶接工作計算規準
高カホルト計算規準

(ロ) 鉛直荷重時ラーメン材応力算定は、

柱脚ピン、両方向ラーメン架構とする。

(ハ) 水平荷重時ラーメン材応力算定は、

同上

(ニ) 土圧力によるラーメン材応力算定は、

(ホ) 基礎は、

独立杭打基礎とする

(ヘ) 基礎梁は、

II) 基礎工法および不同沈下対策

(イ) 地耐力(抗耐力)の認定はP.10~16のボーリング結果(載荷試験、抗打試験)による地盤調査表により、

(ロ) 不同沈下に対しては、

III) 耐震計画

(イ) 水平震度は、 / 階~3階 $K=0.2 \times 1.0 = 0.2$
(地域低減率)

階~階 $K=0.21 \times =$

屋上突出物(ベントハウス、煙突、水槽、)

広告塔

$K=0.3 \times = 1.0$

(ロ) 耐震壁は、

(ハ) 偏心による振れおよび境界効果の検討は、

(2) 材料の許容応力度その他

設計上のコンクリート4週圧縮強度 F_c
 $P_c = 210 \text{ kg/cm}^2$

施工管理の方法 (レティ-ミラストコンクリート)

使用する鉄筋 (記号) S030 (D記号)

許容応力度 (単位kg/cm²)

	長期荷重に対する値						短期荷重に対する値				
	圧縮	引張	剪断	付着			圧縮	引張	剪断	付着	
				曲げ材 上端	定着 継手	曲げ材 一般					
鉄筋	2000	2000	1	14.0		21.0	長期の 1.5倍				
コンクリート	70		7				長期の 1.5倍				
地(抗)耐力							2.0	1.5	1.5		

その他

(3) 積雪~ (各都道府県条例調査のこと)

垂直最深積雪量 (30 cm) の区域

積雪荷重 (長期) $S = \text{cm} \times \text{kg/cm} \cdot \text{m}^2 \times \% = \text{kg/m}^2$

(短期) $S = 30 \text{ cm} \times 2.0 \text{ kg/cm} \cdot \text{m}^2 \times 100\% = 60 \text{ kg/m}^2$

屋根勾配および屋根葺材料低減値 (鉄骨小屋組の場合)

(長期) $S =$

(短期) $S =$

(4) 風荷重

速度圧 $p = 60\sqrt{h}, 120\sqrt{h}$

h (m)	0~8	8~15	15~30
q (kg/m ²)	120	210	300

速度圧低減 _____ %

(5) 計算上採用した適正措置

I) 地下水位, 水圧, 浮力, 土圧等の取扱い.

II) 積載荷重の部分的減少を考慮の有無

無し

III) 剛域考慮の有無及びその場合の割合

無し

IV) 剛比の取り方

V) 側ラーメン及び壁付ラーメンの取扱い.

VI) 柱脚固定度の修正

VII) 剪断力の処理

(6) バランス計画

I. 鉄骨 F 値

鋼材種別	一般構造用			溶接構造用				
	SS41 STK41 STKR41 SSC41	SS50	SS55	SM41	SM50 STK50 STK50	SM53	SM58	
F	t ≤ 40	2.4	2.8	3.8	2.4	2.3	3.6	2.1
	t > 40	2.2	2.6		2.2	3.0	3.4	2.1

II. 溶接許容応力度

応力 材料	長期					短期				
	突合せ				支 肉	突合せ				支 肉
	引張り	圧縮	曲げ	剪断		引張り	圧縮	曲げ	剪断	
SS41	1500	1400	1400	800	800	2,100	2,100	2,100	1,200	1,200

基礎 (地形) 設計条件決定書

工 事 件 名

昭 和 年 月 日

構造規模	RC. SRC. (S) その他,	地上 地下	階, 延面積	m ²
地下水位	GL	m	根切深	m
基礎形式	独立杭打基礎			
杭(地)耐力	t/m ²	700φ 250φ	50.0 63.0	t/本
杭	杭種 AC杭	間隔	本数	
	杭長 7~8M			
	杭径 700φ, 250φ			
1階床架構	柔弱地盤による1階床架構の有, (無)			
予算資料	杭代金	円	計	円/m ²
	杭打費	円		
	杭運搬費	円		

決 定 理 由

造成GL - 7~8.0^m 付近の粘土混り
砂礫層を支持地盤とする。

承認印

調査印

設計者印

杭耐力算定

1) 地盤に与る支持力 $N = 40$

$$R_a = \frac{1}{3} \times 30 \times N \times A_p$$

350φ

$$R_a = \frac{1}{3} \times 30 \times 40 \times .175^2 \times \pi = 38.4 \text{ t}$$

400φ

$$R_a = \frac{1}{3} \times 30 \times 40 \times .20^2 \times \pi = 50.2$$

450φ

$$R_a = \frac{1}{3} \times 30 \times 40 \times .225^2 \times \pi = 63.6$$

500φ

$$R_a = \frac{1}{3} \times 30 \times 40 \times .25^2 \times \pi = 78.5$$

+ 11.5' No. 6

$$N = (38 + 50 + 38) / 3 = 42$$

+ 11.5' No. 8

$$N = (36 + 50 + 50) / 3 = 45$$

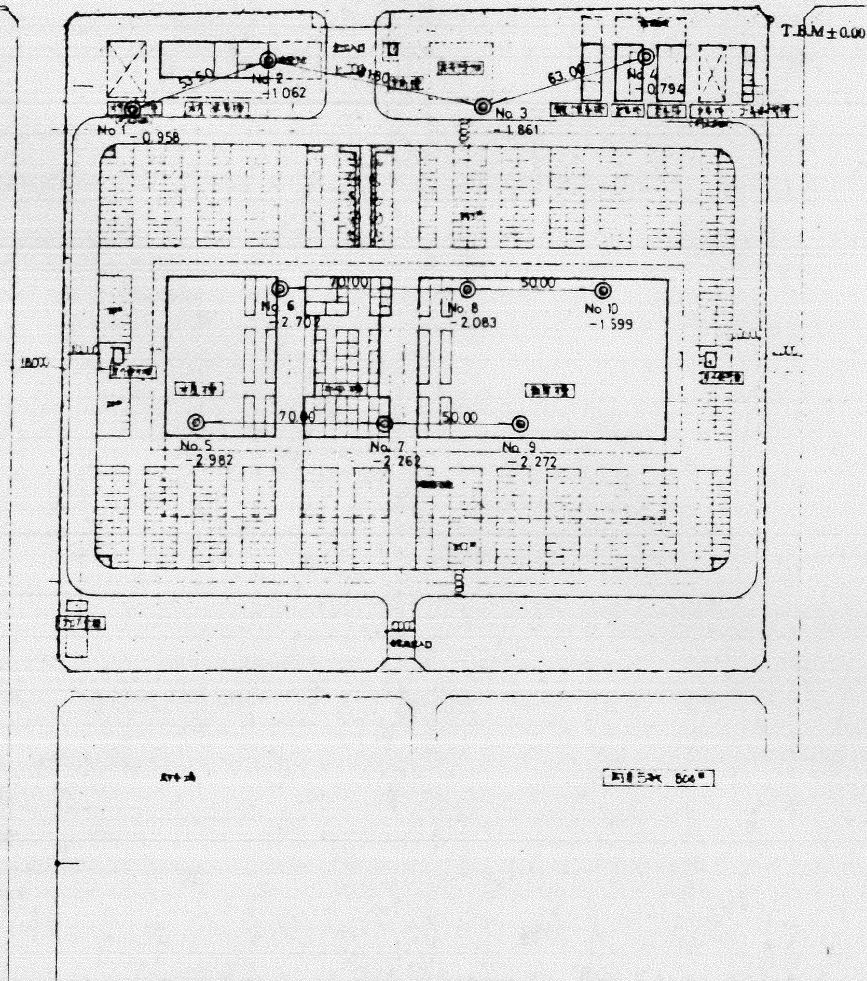
+ 11.5' No. 10

$$N = (27 + 50 + 50) / 3 = 42$$

∴ $N = 40 \text{ t}$

位 置 図

S : 1/2000



- 凡 例
- ◎ Boring Point
 - T.R.M
 - 写真参照